

清刊大徐本説文解字の版本評価の再検討に向けて

鈴木 俊哉

広島大学大学院総合科学研究科

Toward a Reconsideration of *Shuowen Jiezi* Reprints from the Qing Dynasty

Toshiya SUZUKI

Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University

Abstract

As reference material for the *Shuowen Jiezi*, we have reprints of the Song dynasty versions, but the versions printed in the Qing dynasty are still important in modern dictionary or font production. In particular, the Pingjinguang (平津館, PJG) and Tenghuaxie (藤花榭, THX) versions are respected. However, earlier text critiques have focused on the PJG version, which is regarded as having been “modified” from Wang Chang’s Song dynasty version. The THX version is sometimes regarded as better, in spite of the lack of any detailed study. This report applies the earlier studies of the PJG version to the THX version and finds that THX version is “different” from Wang Chang’s Song dynasty version.

1 背景

『説文解字』は漢代に編まれた最初の部首引き字書であると同時に、それが小篆による字源説を述べていることから、唐宋代の正字政策の根拠として利用された。甲骨文字の発見以降、この字源説には様々な見直しが加えられたが、説文小篆に由来する様々な異体字は康熙字典などの近現代の漢字字典に多数残っており、現代行政の漢字政策にも間接的に影響を及ぼしている。

こんにち説文の定本とされるのは南唐末～北宋初の徐鉉・徐鍇兄弟による校訂本のうち、徐鉉によるもの(大徐本)である。しかし、宋～明代にかけて、『説文解字』を韻書の排列で整理しなおした『説文解字五音韻譜』(以下、『五音韻譜』)

が広く膾炙し、明末には本来の排列の説文は流通しない状態となった。たとえば明代の説文学者である趙宦光・趙靈均父子は本来の排列の資料を藏していたと思われるが、その研究書『説文長箋』は『五音韻譜』によったものになっており、本来の説文をそれと認識できていなかったことがわかる。明末に汲古閣の毛晋が宋刊大徐本を入手し、息子の毛扆が翻刻したことによって本来の様子が改めて知られるようになり、段玉裁をはじめとする清代の考証学者により説文学は大きく発展した。しかし、汲古閣本は宋刊大徐本をそのまま翻刻したのではなく、主に徐鍇が校訂した『説文解字繫傳』(小徐本)を用いて改められていた¹ことが、段玉裁の『汲古閣説文訂』[1](以下『説文訂』)で指摘された。これを受け、清代には「宋刊大徐

本の姿をより正しく伝える」とするいくつかの翻刻本が出版された。以下に明清代の翻刻本の主なものを挙げる。

- 汲古閣本(1653)
 - 四庫全書本(提要の年記は乾隆43、1778) 汲古閣本を四庫全書用に筆寫したもの。
 - 朱筠本(1773) 朱筠が通行の汲古閣本を翻刻出版したもの。
- 藤花樹本(1807) 額勒布が、鮑漱芳所蔵の宋刊本を翻刻したとするもの。
- 平津館本(1809) 孫星衍が、宋刊本を翻刻したとするもの。底本の来歴不明。
 - 陳昌治本(1873) 平津館本を見出し小篆ごとに改行し検索の便をはかったもの。一篆一行本とも呼ばれる。
- 汲古閣四次様本(1881) 毛扆による小徐本を用いた改変が加えられる前の汲古閣校本²を淮南書局が翻刻したもの。
- 日照丁氏本(1881) 丁良善が海源閣所蔵の宋刊本を翻刻したとするもの。

宋刊大徐本は完本のうち2種(王昶本[3]、海源閣本[4])は影印出版もされているが、字書の見出し字として参照されるのは依然として清刊本が優勢である。たとえば、『漢語大字典』が現代漢字に対応する古漢字の字形を示す際、説文小篆に関しては宋刊本ではなく陳昌治本によって示す³。このように宋本の影印出版以降も清刊本の重要性は失われていないが、定本として適切な清刊本はどれか、という問題については、「宋刊本に近い」「後人の改変が少ない」といった基準を取る場合が少なくない。たとえば、2014年から台湾の規格専門家が主導して議論されている説文小篆のISO/IEC 10646化において、藤花樹本が宋本に近く最善とされているが[5][6][7]、なぜ宋本そのものを用いないのか、また藤花樹本が最善という評価が研究者の間で十分に共有されたものかには疑問が残る。この評価を改めて検討する材料として、本稿では、清刊本の版本評価について概観し、平津館本と王昶本の比較の研究を藤花樹本に適用した場合の結果を報告したい。

2 清刊小字本の版本評価

本節では、清刊小字本の版本評価として、平津館本と藤花樹本の版本評価の先行研究を整理する。

2.1 概略

清刊本の版本評価は、もっとも広く膾炙した陳昌治一篆一行本のもとになった平津館本と、あまり広く流通しなかった藤花樹本の間で対立していると言える。たとえば『中國古籍善本書目』[8]の項目数を数えると⁴、汲古閣通行本38項、朱筠本6項、平津館本19項(原刻本9項、重刻本および翻刻本10項)、藤花樹本5項の掲載があり、宋本の翻刻としては平津館本と藤花樹本が調べられ、日照丁氏本はあまり調べられていない傾向が見られる。平津館本と藤花樹本に注目すると、それらの先行研究としては、大まかに以下のような評価がある。

- 平津館本と藤花樹本に言及するもの。
 - 平津館本は参考文献としては問題があるとするもの。
 - ✓ 福田襄之介『中國字書史の研究』[9](以下『字書史』)
 - ✓ 王筠『説文解字句讀』[10](以下『句讀』)
- 平津館本は参考文献に足ると見るもの。
 - 周祖謨「説文解字之宋刻本」[11](以下「宋刻本」)
 - 倉田淳之助「説文展觀餘録」[12](以下「餘録」)
- 藤花樹本には言及せず、平津館本の品質が低いとするもの。
 - 王昶本との差により平津館本を批判するもの。
 - ✓ 葉德輝「説文解字三十卷 - 影寫宋本校孫氏平津館本」[13][14](以下、葉氏跋)
 - ✓ 丁福保『説文解字詁林』[15](以下、『詁林』)
- 平津館本には言及せず、藤花樹本の問題点を指摘するもの。
 - 底本が一般に考えられている海源閣本と異なると指摘するもの。
 - ✓ 王貴元「《説文解字》版本考述」[16]

2.2 平津館本と藤花樹本に言及するもの

明清代に翻刻された説文の版本とその評価につ

いて、日本語の文献では福田『字書史』が網羅的に記している。

汲古閣本：これらの汲古閣本は大徐本の明代刊行としては、もっとも早いものであるが、謬誤が極めて多い。この点については丁福保の説文解字詁林の纂例第四条に例を挙げて説明している。(後略)

朱筠本：毛本の重刊本で、宋本に直ちによったものではない。(中略)その毛本も、もっとも批判の多い汲古閣第五次剗改本に依っているのである。(後略)

平津館本：この本の誤刻の状態は説文解字詁林の纂例第四条において示している。そこでは百箇所に近い誤刻が指摘されているが、これでもなお見落としがあるのである。(後略)

藤花樹本：この鮑氏本の宋本の来歴はよくわからないが、孫氏本に比べて誤字は多いが、妄改した部分は見当たらない。この本は少ないので希少価値があり、孫氏本より尊ばれる。(後略)

福田氏は各本の相対的な優劣を論じないが、平津館本の誤字は妄改である一方、藤花樹本の誤字は妄改ではないというように読んでもよいかもしれない。ただし、『字書史』では藤花樹本の底本が現存するかについて言及がないため、福田氏が藤花樹本の底本と目するものを確認した上で「妄改した部分は見当たらない」と評価したとは考えにくい。

福田氏に似た評価をする先行研究には、王筠の『句讀』の凡例がある。王筠が『句讀』を編む際の底本の検討を整理したもので、以下のような記述が見られる。

一 所據之説文本、大徐則毛氏本…鮑氏本。誤字多、然無妄改。孫氏本。誤字少、然序言顧千里改其篆文、則不可据。

一 説解中字體…鮑刻古體多、誤字亦多。孫刻誤刻少、而俗體多。

王筠は平津館本を誤字少と評するが、小篆に関して顧千里による改変を疑い、『句讀』の底本としては採用しない。王筠は「大徐則毛氏本」と記すように汲古閣本を採用する。すなわち、藤花樹本と平津館本の二つだけの評価で見れば福田氏に近いのだが、その理由や、清刊本全体の評価として

見るとかなり異なるのである。

2.3 平津館本と宋本を比較するもの

宋刊本を確認した上で平津館本を批判しているものとして、葉氏跋、『詁林』がある。これらは平津館本の底本を王昶本と推定し、王昶本との差を孫星衍によるものと批判する。葉氏は平津館本には王昶本の誤りが残るもの、改めているもの、王昶本は正しいが平津館本が誤るものなどを列挙して校訂の方針が一貫していないと批判する。『詁林』では誤りのみを列挙し誤刻とする。これらも藤花樹本の品質に関しては言及しないので、『字書史』『句讀』とはまた異なった観点である。彼らの基準で藤花樹本を評価した場合、平津館本よりも高い評価になるのかは明らかでない。

一方、平津館本に高い評価を与えている研究としては周祖謨の「宋刻本」、倉田の「餘録」がある。周と倉田は、同時期に全く独立に王昶本以外の宋刊残本を調査し、それらが王昶本と異なる箇所は、平津館本と一致することを見出した。両者とも、平津館本が段玉裁の『説文訂』が言うところの「周氏宋本」⁵に近いことに注目し、平津館本は王昶本とは別の底本を持つと論じた。

周祖謨は、まず『説文訂』にて王昶本と周氏宋本の差が記される部分では平津館本が周氏宋本に一致することが多いことを調べた。さらに傅氏雙鑑樓所蔵の宋刊残本を確認したところ王昶本と異なる部分が7箇所あり、それらが平津館本と一致するため、王昶本と内容が異なる宋刊本も存在し、平津館本はそのような底本に基づくとした。

倉田は、内藤湖南所蔵(現在、杏雨書屋所蔵)の宋刊残本を王昶本と比較した結果、17箇所の差異があり、それらを平津館本・藤花樹本・日照丁氏本と比較すると、平津館本と良く一致し、さらに内藤本にしか見えない刻工名が平津館本と一致することから、平津館本は王昶本を改変したものだとして批判する先行研究に疑問を呈した。

2.4 先行研究で残されている問題

以上を整理すると、先行研究で残されている大きな問題として、平津館本と藤花樹本を同じ観点で比較したものがほとんどない点がある。平津館本については王昶本との詳細比較はあるものの、底本が王昶本かどうかについて議論が分かれてお

り、一方、藤花樹本については海源閣本が底本と考えられてきたが詳細な比較がない。例外的に王筠の『句讀』などで両本を見た上での評価はあるが、実際の宋刊本と比較したわけではない。従って、平津館本と藤花樹本が宋本に似ているか、底本をどの程度忠実に反映しているか、あるいは校訂されているかという比較は先行研究からは得られない。

3 本稿での調査

前章で、以下のことを述べた。

清刊本のうち最善のものを選ぶ基準として、宋刊本との類似度が用いられる。

宋刊本との差異が多いとされる平津館本は、王昶本との比較で評価されているが、これが参照関係にあるかどうかは議論が分かれる。

藤花樹本を詳細に宋刊本と比較した報告がない。

本稿では、の検討材料としてで調査された箇所を藤花樹本で確認するという調査を行った。この結果を表1に示す。紙幅の都合から、先行研究において、平津館本と王昶本が符合し、さらに今回調査した藤花樹本も符合する場合は画像ではなくテキストで記した。先行研究の報告と資料の状況に齟齬があるものは含めているが、王昶本について四部叢刊本と續古逸叢書が異なり、その異なりが結論に影響するものは今後の課題として除外した⁶。また、先行研究での報告内容は略記したが、各資料に遡る便を考え、説文側の出現箇所の他、指摘側の出現箇所もある程度記載した。

3.1 周祖謨「宋刊本」によるもの

3.1.1 附録「孫星衍平津館重刊宋本説文解字校勘記」(孫本校)

この校勘記の記述にはいくつかの異なるタイプがある。一つのタイプは「華式潘切。王本式作北、是也。」や「丕敷悲切。王本敷作牧、誤。」のように、平津館本と王昶本の違いと、さらに正誤も記すタイプである。また「啐讀若馭。馭、王本作刷。」のように、違いだけ記すタイプもある。本稿はどちらも「式(孫)、北(王)」「馭(孫)、刷

(王)」のように記す。さらに他のタイプとして、「韋

从止以又。以字當作「从」字。」のように正誤のみ記すタイプがある。このような場合、「以(誤)、从(正)」のように記す。説文での出現順に記載されるので、論文側の出現箇所については省略する。

3.1.2 『説文訂』の周氏宋本との比較

周祖謨が「宋刊本」にて、『説文訂』が述べる周氏宋本の特徴と平津館本を比較したもものから、『説文訂』の記述内容を略記あるいは引用した。説文での出現順に記載されるので、論文側の出現箇所は省略する。

3.1.3 雙鑑樓所藏本と王昶本の比較

周祖謨が調査した雙鑑樓所藏本と王昶本の差は全て「輒(王)、輒(雙、孫)」のように記す。説文での出現順に記載されるので、論文側の出現箇所は省略する。

3.2 丁福保『説文解字詁林』纂例第4條

丁福保が纂例第4條で挙げる平津館本の誤りの大半は王昶本には見られない誤りだが、指摘箇所は必ずしも王昶本で正しいとは限らない。このため、『詁林』の掲出箇所に関しては「蝻(孫)、蝻(正)」のように書く。大半は周祖謨の校勘記でも言及されているため、それらについては丁福保の記述を省略した。『詁林』側での出現箇所を「葉26右・行10・項1」のように記すが、これは『詁林』の纂例巻の第26葉の右頁、10行目で言及される誤りの1番目を指す。

3.3 葉德輝『郎園讀書志』(郎志)

葉氏跋にて平津館本と孫氏景宋寫本(孫星衍が王昶本を寫したもの)、日照丁氏本と平津館本の比較として列挙するもの。葉氏跋は誤りの種別ごとに列挙する。平津館本に対する跋では、A) 景宋寫本も平津館本も誤る、B) 景宋寫本は誤るが平津館本は正しい(点画の増減)、C) 景宋寫本は誤るが平津館本は正しい(字体変更が目立つもの)、D) 景宋寫本は正しいが平津館本は誤る、E) 『説文訂』の「周氏宋本」と比較したもの、に分類される⁷。当該字の葉氏跋内での言及箇所は種別とともに示した。たとえば「郎志:A: 卷02. 葉37左・行02. 項1」のように記したものは、郎園讀書志の第2巻、37葉左頁の2行目で言及される1つめの箇所で、指摘の種類はAを指す。指摘内容

は、たとえばA)について「未(正)、黍(孫)」のように記す。大半は周祖謨の校勘記でも言及されているため、それらについては葉氏の記述を省略した。

日照丁氏本に対する跋では、U) 景宋寫本と丁氏本が正しく平津館本は誤る、V) 景宋寫本・平津館本が誤るが丁氏本は正しい、W) 景宋寫本・平津館本・丁氏本が同じく誤る、X) 景宋寫本・平津館本は正しいが丁氏本が誤る、Y) 景宋寫本は正しいが平津館本・丁氏本が誤る、Z) 平津館本・丁氏本は正しいが景宋寫本は誤る、に分類される。本稿では丁氏本の実際状況は確認できていないので、言及がある箇所のみ示し、大半の指摘内容は省略した。

3.4 倉田淳之助「説文展観餘録」(倉田)

倉田淳之助「説文展観餘録」で示される内藤湖南所蔵本と王昶本の差。王昶本については、四部叢刊初印本により確認したとある。「未(内藤)、求(岩崎)」のように記す。説文での出現順に記載されるので、論文側の出現箇所については省略する。

3.5 鈕樹玉『説文解字校録』の附録「説文刊誤」(刊誤)

鈕樹玉『説文解字校録』[17](以下、『校録』)は藤花樹本や平津館本刊行以前の研究書である。周祖謨は校勘記の中で『校録』本文を一部引用しているが、本文が「宋本」に言及する際、『説文訂』の孫引きや他の研究者の伝聞が入り混じっており(顧千里曰、孫星衍云などの語が見える)、単一の版本に関するものかは判断が困難である⁸⁾。しかし附録の「刊誤」は、わずか2葉の資料であること、報告内容が王昶本とも汲古閣初印本とも異なり、平津館本とよく符合するため調査に含めた。説文での出現順に記載されるので、『校録』側の出現箇所については省略する。

3.6 長澤規矩也による版刻工名(刻工)

平津館本と王昶本に見える版刻工名に違いがあることが知られるが(『字書史』「餘録」などが言及)、先行研究が言及する本文の違いが、たとえば補版などにより発生した可能性を検討するため、長澤規矩也が調査した平津館本と續古逸叢書影印による王昶本の版心に見える刻工名の差異

[18]を付記した。長澤は両本で符合する場合は刻工名を記載しないため、それらについては国立公文書館所蔵の平津館本原刻本で調査して補った。たとえば平津館本の刻工名が「何」で、王昶本に刻工名がない場合、「何/なし」のように記す。両者で符合する場合は「文」のように記す。

3.7 その他

筆者が2016年5月に北京師範大を訪れた際、同大の李國英教授・周曉文教授の厚意により、影印出版された海源閣本のデジタル画像を数時間閲覧する機会を得た。そこで確認できた海源閣本の状況を付記している。また、臺灣國家圖書館所蔵の朱竹残本[19]のデジタル画像をごく短時間閲覧することもできたので、そこで確認できた状況も付記した。

4 結論・今後の課題

4.1 調査結果の内訳

本稿での383箇所の調査結果の内訳は以下のようである。

平津館本だけ異なる	156箇所
(うち刻工名異なり)	96箇所)
王昶本だけ異なる	107箇所
(うち刻工名異なり)	73箇所)
藤花樹本だけ異なる	86箇所
(うち刻工名異なり)	50箇所) ⁹⁾
全て異なる	24箇所
(うち刻工名異なり)	13箇所)
全て同じ	10箇所
(うち刻工名異なり)	3箇所)

という結果を得た。～で刻工名が異なるのは54～68%であり、補版により異なりが発生したという明らかな相関は見えなかった¹⁰⁾。

丁福保や葉德輝が言うように、「平津館本は王昶本を底本としながら孫星衍による妄改を受けた結果、王昶本と異なるものになった」という経緯があるのであれば、は説明できるが、が説明できない。孫星衍も額勒布も当時通行していた研究書に基づいて校訂した結果、両版本とも同じ改変を受けたという可能性も考えられるが、筆者が藤花樹本の底本と目されるところの海源閣本を

部分的に調査できた範囲では、の範疇では海源閣本が王昶本と異なっているものが無視できない数で存在し(倉田が報告する内藤本は、不鮮明な箇所を除けば海源閣本と完全に一致する)、この可能性を強く主張するのは難しいと思われる。周祖謨や倉田が指摘するように、王昶本と異なる底本があったと考えてを説明するのが妥当であろう。また一方、朱竹残本は王昶本に近い傾向が見受けられた。

4.2 今後の課題

本稿では藤花樹本のみ異なるの背景については明らかにできていない。本稿は各本で異なりがある場合にどれが正しいとされるかは精査しなかったが、は平津館本と王昶本が誤りとされる文字を示し、同時に藤花樹本が正しいとされる文字を示す状況が少なくない印象がある。これがで平津館本が正しい状況に比べて有意な差であるかは、今回大半を除外した「全て同じく誤るもの」との対比が必要であり、他本(汲古閣通行本など)との比較も必要であろう。

また、倉田は内藤本を汲古閣本、藤花樹本、平津館本、日照丁氏本と比較した上で、平津館本が内藤本に最も近いと評した。今回、海源閣本・内藤本・平津館本の類似と、海源閣本・藤花樹本の差異が見つかり、倉田の指摘の妥当性が示された。しかし、海源閣本も全ての箇所において平津館本に一致するわけではない。海源閣本と内藤本の関係はさらなる調査が必要である。

謝辞

本稿は科研費課題番号263303770Bと16K004600Aの補助を受けました。本研究に際して、東京大学大西克也教授、上智大学高橋由利子名誉教授、茨城大学鈴木敦教授、北京師範大学李國英教授、同大学周曉文教授、明治大学金木利憲兼任講師、NTT未来ねっと研究所川幡太一様の皆様には有益なご指摘とご教示、様々なご援助を頂きました。ここに御礼申し上げます。

注

- 1 本稿では最終的に汲古閣が出版したものを通行本と呼び、その直前の小徐本による改変が加わっていないものを段玉裁に従って初印本と呼ぶ。汲古閣版説文の改訂プロセスについては高橋由利子氏の論文[2]を参照されたい。
- 2 高橋由利子氏によれば淮南書局による翻刻以外にも、通行本が出版される前の校訂作業中に刷られたと思われる資料が京大に存するという[2]。
- 3 明記されていないが『漢語古文字字形表』の説文古文なども陳昌治本から取られているように思われる。
- 4 『中國古籍善本書目』はある古籍について書き込みがなければ所蔵館によらず1項とするが、研究者の校語などが書き込まれている場合、独立の1項をたてる。この項数より、自ら校訂を行った研究者数の多寡を見積もることができる。
- 5 『説文訂』執筆時に段氏が周錫瓚の蔵書で確認した宋本が「周氏宋本」と呼ばれる。『説文訂』の中では王昶本と周氏宋本の間に差異があることが記されている。
- 6 たとえば巻14下6葉10行目「穀」字は声符を穀とするもの(続古逸叢書、四部叢刊上海商務印書館縮印日本岩崎氏蔵宋刊本)と穀とするもの(四部叢刊函芬樓借日本岩崎氏靜嘉堂藏北宋刊本影印)がある。
- 7 巻9下4葉19行目の「馨」の説解のように複数種に矛盾した掲出をする場合がある。
- 8 『校録』は段玉裁『説文解字注』(1807)直前の刊行だが、『説文訂』に見えず段注本が言及する宋麻沙本の情報も既に含んでいる。「中」字などを参照されたい。
- 9 藤花樹本は底本の刻工名を残さないのが、この数値は直接的な意味がないが、参考として示した。
- 10 ただし、本稿では異なりの強弱については精査していないので、「又・叉」のような異なりも、「也・聲」のような異なりも同格に扱っている。

参考文献

- [1] 段玉裁:『汲古閣説文訂』,五硯樓(1797).

- [2] 高橋由利子:『『說文解字』毛氏汲古閣本について』, 汲古, 第27号(1995), p.27-38
- [3] 許慎:『說文解字』, 四部叢刊所収, 上海涵芬樓借日本岩崎氏靜嘉堂藏北宋刊本影印, 商務印書館(1919).
- [4] 許慎:『說文解字』, 中華再造善本, 中國國家圖書館藏宋刻元修本影印, 北京圖書出版社(2004-03), ISBN 7501322627
- [5] TCA and China: “Proposal to Encode Small Seal Scripts in UCS”, ISO/IEC JTC1/SC2/WG2 N4634, 2014-09-30
- [6] TCA and China: “Proposal to Encode Small Seal Scripts in UCS”, ISO/IEC JTC1/SC2/WG2 N4688, 2015-10-20
- [7] TCA: “TCA Feedback on N4716”, ISO/IEC JTC1/SC2/WG2 N4755, 2016-09-22
- [8] 天津圖書館編:『中國古籍善本書目』, 齊魯出版(2003-1), ISBN 9787533310455
- [9] 福田襄之介:『中國字書史の研究』, 明治書院(1979), p.182-187.
- [10] 王筠:『說文解字句讀』, 涵芬樓, 出版年不明(清末民初).
- [11] 周祖謨:『問學集』, 中華書局(1966-01), 下卷, p.760-800.
- [12] 倉田淳之助:『說文展觀餘錄』東方學報(京都)第10冊第1分冊(1939), p.145-154.
- [13] 葉德輝:『說文解字三十卷 影寫宋本校孫氏平津館本』, 『郎園讀書志』, 澹園鉛印(1928), 第2卷, 葉36-41.
- [14] 葉德輝:『(說文解字三十卷)又一部 光緒壬午山東丁氏刻本』, 『郎園讀書志』, 澹園鉛印(1928), 第2卷, 葉41-45.
- [15] 丁福保:『說文解字詁林』, 臺灣商務印書館影印(1976).
- [16] 王貴元:『《說文解字》版本考述』, 古籍整理研究學刊(1999年第6期), p.41-43, p.34
- [17] 鈕樹玉:『說文解字校錄』, 江蘇書局(1806)
- [18] 長澤規矩也:『續校勘絮談(四)』, 書誌學5-5(1935), p.329-332.
- [19] 許慎:『說文解字』, 南宋初刊宋元遞修本乾隆己亥朱筠題跋, 臺灣國家圖書館 古籍影像資料庫, 索書號 110.21 00911.
- [20] ISO/IEC JTC1/SC2: “Ideographic Description Characters”, Information Technology – Universal Coded Character Set (UCS): 2014-09-01, Annex I, p.2423-2426.

表1: 先行研究で調査された平津館本・王昶本の誤字と藤花樹本の状況

出現箇所は、王昶本説文解字での出現箇所、v{巻番号}{a=上, b=下, x=上下なし}.l{葉番号}.l{行番号}の形式である。表中では頻出する版本名について平津館本を孫本、王昶本を王本、藤花樹本を額本、汲古閣本を毛本、日照丁氏本を丁本と記す。資料に見える字形差を指示できる適切な符号化漢字がない場合はIDS[20]により表記した(各本の掲出状況は縦書きで記し、その中にIDSで表記する場合は1文字分のIDSだけを縦中横で記す)が、資料の状況が先行研究での報告と大きく異なるものについては画像を示す。また改行位置を示す必要がある場合は「/」により示す。ただし親字に関しては出現箇所を探す指標でしかないため、先行研究が小篆に対応づけた活字字形が符号化漢字に無い場合、同義字で代用し、IDSでの表記はしない(例えば、「孫本校」では「走」ではなく「𠂔十三止」で指示するが、対応する小篆に混乱がないため「走」で示した)。

孫本は中国哲学書電子化計画(ctext.org)でのスキャン画像(原刻本)を参照したが、画質が非常に低いため、字形判断に困難がないものについては、世界書局影印本(朱氏本)の画像を示す。王本は四部叢刊影印の画像を示すが、続古逸叢書の状況も確認した。両本でかすれ・にじみ以上の字形差があり、異なり種別に影響があるものは今後の課題として表から除外した。額本については早稲田大学所蔵本のデジタルアーカイブを参照した。先行研究欄の詳細は3章を参照されたい。

	出現箇所	親字	孫	王	額	刻工(孫/王)	異なり	先行研究
1	v00x.102.102	几				何 /なし	王	孫本校: 小篆の字形が孫本と王本で異なる。 海源閣本は孫本に近い。
2	v00x.102.108	華	式	北	北	何 /なし	孫	孫本校: 式(孫)、北(王) 海源閣本はかすれており不明。 刊誤: 北譌作式
3	v00x.103.107	束	ホ		束	汪惠 /不鮮明	孫	孫本校: ホ(孫)、束(王) 四部叢刊や続古逸叢書影印では王本が米にも見えるが、ここでは周祖謨に従い孫本のみ異なるとする。 海源閣本は孫本に近い。
4	v00x.103.114	弓	弓	弓	弓	汪惠 /不鮮明	孫	孫本校: 弓(孫)、弓(王) 海源閣本は判断が困難。
5	v00x.103.113	束	束	束	束	汪惠 /不鮮明	孫	孫本校: 束(孫)、束(王)
6	v00x.104.111	髟	銜	凋	髡	文	全異	孫本校: 銜(孫)、凋(王) 海源閣本では左上が欠けた禍? 刊誤: 髟譌作銜
7	v00x.105.114	傘	侯	侯	懷	丁 /丁=	額	刊誤: 懷譌作侯
8	v00x.106.113	亥	古	古	胡	なし	額	刊誤: 胡譌作古
9	v01a.101.110	丕		牧	敷	呉祐 /なし	王	孫本校: 敷(孫)、牧(王) 孫本は敷ではなく敷(偏は専)にも見えるがここでは周祖謨に従う。 海源閣本は孫本に近い。
10	v01a.102.107	𠂔			盲	徐茂 /なし	全異	孫本校:
11	v01a.102.111	𠂔	春 :春 春	春 :春 春	春 :春 春	徐茂 /なし	全異	孫本校: 讀若春麥…臣鉉等曰春麥…(正)、讀若春麥…臣鉉等曰春麥…(誤) 「春」を二回掲出すべきところを「春」と「春」になっているという誤りの指摘である。 説文訂: 周氏宋本のみ讀若春麥、他は讀若春麥 前段のみの指摘で、後段の臣鉉等曰…に関しては記述なし 郵志:E:卷 02.葉 40 右.行 09.項 1
12	v01a.107.104	中	而	而	和	呉祐	額	郵志:V:卷 02.葉 42 左.行 10.項 1: 而(孫)、和(丁)
13	v01b.102.114	蓋	公	从	从	なし	孫	孫本校: 公(孫)、从(王) 海源閣本は孫本に符合。 詰林:葉 25 左.行 03.項 3
14	v01b.104.107	薺	梨	梨	黎	裕明? /なし	額	郵志:X:卷 02.葉 44 右.行 07.項 1: 梨誤黎
15	v01b.104.111	鷓			旨 鷓	裕明? /なし	王	孫本校: 鷓(孫)、鷓(王) 海源閣本は王本に符合。 「旨」の字形差は言及部分より微細として無視した。

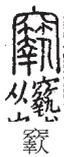
16	v01b.105.114	臈	也	也	也从	李德瑛刊	額	孫本校: 从が脱落。 海源閣本には対応箇所には赤字で从が書き込まれる。
17	v01b.106.115	蒔	更	吏	吏	詹徳潤 /施	孫	孫本校: 更(孫)、吏(王) 海源閣本は孫本に符合。 詁林:葉 26 右.行 09.項 3 刊誤: 吏作更
18	v01b.106.118	穽	它	他	它	詹徳潤 /施	王	刊誤: 他作它
19	v02a.103.118	啐	刷	刷	刷	なし	王	孫本校: 刷(孫)、刷(王) 海源閣本は孫本に符合。
20	v02a.104.120	噎	烏	爲	烏	裕明? /なし	王	孫本校: 烏(孫)、爲(王) 海源閣本は孫本に符合。
21	v02a.106.103	嘑	訶	訶	訶	何昇 /なし	王?	孫本校: 訶(孫)、訶(王)、訶(五音韻譜) 孫本が訶か訶か判断し難いが、周祖謨に従う。 海源閣本は孫本に符合。 説文訂: 宋本作訶作訶皆非也。趙本訶訶訶是。 どの版本が訶でどの版本が訶かは不明。
22	v02a.106.104	嘖	塵	塵	塵	何昇 /なし	孫	郵志:A:卷 02.葉 37 左.行 01.項 2: 塵(正)、塵(孫) 郵志:U:卷 02.葉 41 左.行 01.項 1
23	v02a.106.108	喚	呼	呼	呼	何昇 /なし	王	孫本校: 呼(孫)、呼(王) 海源閣本は孫本に符合。
24	v02a.106.114	罨	罨	罨	罨	何昇 /なし	額	孫本校: 罨(孫)、罨(正)。 説文訂: 二宋本葉本作罨毛本従之非也。 海源閣本は罨。
25	v02a.107.102	趯	躡	躡	躡	丁之才 /なし	王	孫本校: 躡(孫)、躡(王) 海源閣本は孫本に符合。
26	v02a.107.107	趨	从	从	切	丁之才 /なし	額	孫本校: 从(誤)、切(正) 海源閣本は孫本・王本に符合。
27	v02a.107.110	趙	若又子	老又子	若又子	丁之才 /なし	全異	孫本校: 子(孫)、于(毛) 海源閣本は孫本に符合。
28	v02a.108.110	韋	以	以	从	翁	額	孫本校: 以(誤)、从(正) 海源閣本は孫本に符合。 郵志:A:卷 02.葉 37 左.行 02.項 1 郵志:Z:卷 02.葉 44 左.行 05.項 1: 王本・孫本は以、丁本は以の内部の点を削った字形
29	v02a.108.117	此	此	雌	雌	翁	孫	詁林:葉 26 右.行 10.項 1: 此(孫)、雌(正)
30	v02b.101.108	悼、眇				鄭植	孫	孫本校: 孫本ではこの行は改行せずに前の行を埋めるように書く。王本は改行して書く。 海源閣本は王本と同じく改行する。
31	v02b.102.108	遣	特	徒	特	何昇 /なし	王	孫本校: 特(孫、廣韻)、徒(王) 海源閣本はかすれており不明。
32	v02b.103.104	邇				何澤	孫	孫本校: 孫本はシンニョウだが、王本・毛本はシンニョウではない。 海源閣本は王本に符合。
33	v02b.103.116	循	許	計	詳	何澤	全異	孫本校: 許(孫)、詳(額) 四部叢刊、續古逸叢書に見える王本は「計」だが、周祖謨は何も記していない。ここでは計と見た。 海源閣本は孫本に符合。
34	v02b.104.118	齶	糜	糜	糜	余敏 /なし	王	孫本校: 糜(孫)、糜(王)、どちらも誤りで正しくは麩。 海源閣本は王本に符合。
35	v02b.106.102	跖	各	谷	各	信	王	孫本校: 各(孫)、谷(王、廣韻) 海源閣本はかすれており不明。

36	v02b.106.108	踞	掠	博	博	信	孫	孫本校: 掠(孫)、博(王)、傍各切(廣韻) 海源閣本はにじんであるが王本に近いが。 詁林:葉 26 右.行 05.項 2 刊誤: 博作掠
37	v02b.107.101	踞	五	丑	丑	仇	孫	孫本校: 五(孫)、丑(王) 海源閣本は王本に符合。 詁林:葉 26 右.行 10.項 2
38	v03a.101.118	囚	導	道	道	良富	孫	郵志:B:卷 02.葉 38 左.行 09.項 1: 道(誤)、導(孫)
39	v03a.103.101	警			挺	なし	王	孫本校: 挺(孫)、挺(王) 周祖謨は王本を木偏と読みとるが手偏にも見える。 ここでは周に従い、また偏の違いにだけ注目する。 海源閣本は判断が難しいが、孫本に近いが。
40	v03a.103.102	談	聲徒	聲徒	聲徒	なし	王	孫本校: 王本では「聲」字が後の行にある。 海源閣本は孫本に符合。
41	v03a.105.107	謫			世	陳 なし	孫	郵志:D:卷 02.葉 39 左.行 06.項 1: 泄(正)、世(孫) 王本の字形は判断が難しいが、郵志:Dは王本が正しく孫本が誤る事例を集めたものであるため、葉德輝は王本の写本で世と見たと思われる。ここでは葉に従う。 郵志:U:卷 02.葉 41 左.行 02.項 1
42	v03a.105.111	訶	訶	言	訶	陳 なし	王	孫本校: 訶(孫)、言(王) 海源閣本は旁がにじんであり不明。
43	v03a.105.115	眼	眼	眼	很	陳 なし	額	孫本校: 眼(誤)、很(正) 海源閣本は孫本・王本に符合。 郵志:A:卷 02.葉 37 左.行 03.項 1 郵志:U:卷 02.葉 41 左.行 02.項 2
44	v03a.106.110	譙	嚼	噍	嚼	思忠 なし	王	孫本校: 嚼(孫)、噍(王) 海源閣本は孫本に符合。 説文訂: 讀若嚼。王氏宋本及葉本嚼作噍。 周祖謨は周氏宋本が嚼という意味に解釈する。 郵志:E:卷 02.葉 40 右.行 11.項 1
45	v03a.106.112	誦			誦	思忠 なし	王	孫本校: 小篆字形が異なる。 海源閣本は孫本に符合。
46	v03a.106.112	誦	(脱落)	一	一	思忠 なし	孫	孫本校: 「…也、一曰…」(王)、「…也、曰…」(孫) 詁林:葉 26 右.行 03.項 1
47	v03a.108.107	井		夕	中	周明	全異	郵志:B:卷 02.葉 38 左.行 10.項 2: 夕(誤)、  (孫) 郵志:X:卷 02.葉 44 右.行 08.項 1
48	v03a.108.114	弈	博	博	博	周明	孫	孫本校: 博(孫)、博(王) 海源閣本は孫本に符合。
49	v03b.103.112	飢	魚祭切	育祭切	育祭切	何澄 なし	全異	孫本校: 魚祭切(孫)、育祭切(王) 周祖謨はこう記すが、四部叢刊本や續古逸叢書で見ると王本は育祭、孫本は魚祭で、額本のみ育祭である。 海源閣本は魚祭につくる。
50	v03b.103.112	飢	飪	食	飪	何澄 なし	王	孫本校: 設飪也(孫)、設食也(王) 海源閣本は食飪也。
51	v03b.104.105	又		又	又	金榮 なし	全異	郵志:A:卷 02.葉 37 左.行 05.項 1: 又(正)、又(孫) 葉德輝はこう記すが、孫本では又に見える。 郵志:U:卷 02.葉 41 左.行 03.項 3
52	v03b.104.107	變	熟	孰	孰	金榮 なし	孫	孫本校: 熟(孫)、孰(王) 海源閣本は孫本に符合。
53	v03b.104.108	叟	引		神	金榮 なし	孫	孫本校: 引(孫)、神(王) 周祖謨はこう記すが、四部叢刊や續古逸叢書では神でなく神にもみえる。ここでは額本と同一とする。 海源閣本では「引也」 郵志:C:卷 02.葉 39 右.行 09.項 1
54	v03b.104.109	叟・叟			叟	金榮 なし	王	郵志:B:卷 02.葉 38 左.行 10.項 1:  虎豆又(誤)、  虎且又(孫)
55	v03b.104.109	叟・叟	又		又	金榮 なし	全同	孫本校: 又(孫)、又(王) 周祖謨はこう記すが、四部叢刊も續古逸叢書でも王本は又に見える。ここでは全て同一と見る。 海源閣本は孫本に符合。

56	v03b.108.111	敵	擊	擊	繫	裕明 /補写	額	郵志:V:卷 02.葉 43 右.行 02.項 1: 繫(丁)
57	v03b.109.111	敷	矇	矇	矇	楊春	孫	孫本校: 矇(孫)、矇(王、毛) 海源閣本は王本に符合。 詁林:葉 25 左.行 04.項 2
58	v04a.101.115	暖	汎	汎	況	夏文 /なし	額	孫本校: 汎(誤)、況(正) 海源閣本は孫本・王本に符合。 詁林:葉 26 右.行 10.項 3
59	v04a.102.113	睨	也	也	他	顧達	額	孫本校: 也(誤)、他(額) 海源閣本は孫本・王本に符合。
60	v04a.102.115	看	之	之	也	顧達	額	孫本校: 之(誤)、也(正) 海源閣本は孫本・王本に符合。 郵志:V:卷 02.葉 43 右.行 03.項 1: 也(丁)
61	v04a.103.115	盾	問	閏	閏	陳鎮 /なし	孫	孫本校: 問(誤)、閏(正) 海源閣本はにじみのため不明だが、門構の中に何か があり、王本に近いと思われる。 刊誤: 閏作問
62	v04a.104.107	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	王恭 /なし	全同	孫本校: 𠂔(誤)、𠂔(正) 周祖謨はこう記す。各本ともネにつくるが、必の点 が接近しているだけで衣偏ではないように見える。 ただし結論には影響しない。 海源閣本は示ではないが、ネか衣かは不明。
63	v04a.105.109	韃	榦	榦	榦	なし	王	孫本校: 榦(孫)、榦(王) 海源閣本は不鮮明で判断できず。
64	v04a.108.110	難	𠂔	𠂔	𠂔	顧永 /なし	額	孫本校: 難(誤)、𠂔(正) 周祖謨はこのように記す(傍の鳥と隹の違いに注目す る)が、孫本、王本(四部叢刊本、續古逸叢書とも)、 額本のどれにも難は見えない。偏が貝か昊かにより 区別した。
65	v04a.109.104	駟	也	也	聲	信 /なし	額	孫本校: 也(誤)、聲(正) 海源閣本は孫本・王本に符合。
66	v04a.109.113	鶯	榮	瑩	榮	信 /なし	王	孫本校: 榮(孫)、瑩(王) 海源閣本は不鮮明で判断できず。
67	v04a.110.107	焉	属	属	長	信	額	孫本校: 属(孫、王)、長(毛、正) 周祖謨は旧字の属を書いているが、孫本、王本とも 筆写体の属である。 説文訂: 周氏宋本長作属誤。 説文訂がこのように書く場合は通常、王本は周氏宋 本だけ異なるという意味だが、この場合は王本も属。 郵志:A:卷 02.葉 37 左.行 07.項 2
68	v04b.102.102	玆	玆	玆	玆	宋通	孫	孫本校: 玆(孫)、玆(王)
69	v04b.102.116	𠂔・𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	宋通	孫	孫本校: 𠂔(孫)、𠂔(王) 詁林:葉 26 左.行 03.項 1
70	v04b.104.115	脩	洛	各	各	徐珙	孫	孫本校: 洛(孫)、各(王)、落(唐韻)
71	v04b.105.111	胡	頤	頤	頤	方中 /なし	王	孫本校: 頤(孫)、頤(王)
72	v04b.107.116	刺	束	束	束	占	額	孫本校: 束(孫、王)、束(正)
73	v04b.108.101	办	刀	刃	刃	春	孫	孫本校: 刀(孫)、刃(王) 詁林:葉 25 左.行 05.項 1
74	v04b.108.111	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	春	全異	孫本校: 𠂔又(孫)、𠂔又(段氏)
75	v04b.109.108	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	蔣榮 /不鮮明	全異	孫本校: 𠂔(孫)、𠂔(王)、𠂔(毛) 周祖謨はこのように記すが、毛本は𠂔を示す。結論 には影響しない。 詁林:葉 25 左.行 05.項 2
76	v05a.102.106	箝	箝	箝	箝	陳新	王	孫本校: 箝(孫)、箝(王)
77	v05a.102.109	答	𠂔	𠂔	𠂔	陳新	全同	詁林:葉 25 左.行 06.項 1: 𠂔(孫)、𠂔(正) 丁福保はこう記すが、孫本では𠂔に見える。
78	v05a.102.117	𠂔	女	妾	妾	陳新	孫	孫本校: 女(孫)、妾(王、毛) 詁林:葉 25 右.行 04.項 1
79	v05a.103.101	𠂔	(脱落)	一	一	林 /なし	孫	孫本校: 「一曰…」(王)、「曰…」(孫) 詁林:葉 26 右.行 03.項 2

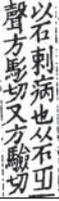
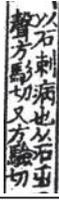
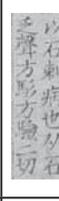
80	v05a.103.117	笑	犬	夭	犬	林 なし	王	孫本校: 犬(孫)、夭(王)
81	v05a.105.105	甚	从甘从	从甘甘	从甘甘	王恭 なし	孫	孫本校: 「从甘、从匹」(孫)、「从甘、甘匹」(王)、「从甘匹、匹」(韻會) 郎志:X:卷 02.葉 44 右.行 09.項 2: 甘誤+
82	v05a.106.114	旨	雉	稚	雉	金 なし	王	孫本校: 雉(孫、廣韻)、稚(王)
83	v05b.101.108	青	象	必	必	李 なし	孫	孫本校: 象(孫)、必(王) 訃林:葉 25 左.行 06.項 2 刊誤: 必作象
84	v05b.101.117	既	未	求	未	李 なし	王	倉田: 未(内藤)、求(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
85	v05b.102.118	饑	困	因	困	蔣榮 なし	王	孫本校: 困(孫)、因(王) 孫本校では出現箇所を葉 3 とするが葉 2 の誤り。
86	v05b.104.103	缶	九	丸	九	董澄 なし	王	倉田: 九(内藤)、丸(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
87	v05b.105.106	市				凌宗 なし	孫	孫本校: 了(孫)、了(王) 王本・額本が了か了か判断が難しいが、孫本とは明らかに異なる。
88	v05b.106.102	屋	士	土	土	張富 なし	孫	孫本校: 士(孫)、土(王) 倉田: 士(内藤)、土(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本に符合。 訃林:葉 25 左.行 07.項 1
89	v05b.107.103	麴	末	未	末	王羽 なし	王	倉田: 末(内藤)、未(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
90	v05b.108.103	韋	宇	字	字	許恭 なし	孫	倉田: 宇(内藤)、字(岩崎) 海源閣本は識別困難。
91	v05b.108.111	韌	刃	刀	刃	許恭 なし	王	倉田: 刃(内藤)、刀(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
92	v05b.108.119	刃				許恭 なし	孫	孫本校: 了(孫)、了(王)
93	v06a.101.113	棧	桂	荏	荏	顧達 なし	孫	刊誤: 荏作桂
94	v06a.101.118	榷	谷	屋	屋	顧達 なし	孫	孫本校: 谷(孫、廣韻)、屋(王、毛)
95	v06a.102.111	桔	木	大	木	朱祖 なし	王	倉田: 木(内藤)、大(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
96	v06a.103.101	柳	九	戸	九	なし	王	倉田: 九(内藤)、戸(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
97	v06a.103.103	楓	彙		彙	なし	王	倉田: (内藤)、 (岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
98	v06a.103.110	梗	粉	初	粉	なし	王	孫本校: 粉(孫)、初(王)
99	v06a.103.110	梗	夷	萊	荑	なし	全異	孫本校: 夷(孫)、萊(王)
100	v06a.103.119	梏	古	占	古	なし	王	倉田: 古(内藤)、占(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
101	v06a.103.119	櫟	木	才	木	なし	王	倉田: 木(内藤)、才(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
102	v06a.104.103	纍	周	用	周	なし	王	倉田: 周(内藤)、用(岩崎) 海源閣本は不鮮明だが周か。
103	v06a.104.107	檣	施	施	施	なし	王	孫本校: 施(孫)、施(王)
104	v06a.104.108	檣	侍	待	侍	なし	王	倉田: 侍(内藤)、待(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
105	v06a.105.106	楣	武	莫	武	宋 なし	王	孫本校: 武(孫)、莫(王)

106	v06a.105.109	楯	楯	檻	檻	宋 なし	孫	孫本校： 闕楯也。闕、王本作檻。 周祖謨はこのように記すが、王本と孫本で異なっているのは2文字目の楯(孫)と檻(王)とである。卹志は正しく記す。結論には影響しない。 詁林:葉 25 左.行 07.項 2 卹志:D:卷 02.葉 39 左.行 07.項 1: 檻(正)、楯(孫) 卹志:U:卷 02.葉 41 左.行 07.項 1
107	v06a.105.111	椋	官	官	官	宋 なし	王	倉田: 官(内藤)、官(岩崎) 海源閣本は判別困難だが、官に近い。
108	v06a.105.115	橦	極	柱	柱	宋 なし	孫	孫本校: 極(孫)、柱(王) 説文訂: 宋本葉本極作柱。 王本の誤りは指摘しているが、周氏宋本の状況については明確でない。
109	v06a.106.103	桤	黍	𠂔禾余	黍	なし	王	卹志:A:卷 02.葉 37 左.行 09.項 1: 未(正)、黍(孫) 卹志:U:卷 02.葉 41 左.行 06.項 1
110	v06a.106.111	杓	从从	从从	从	なし	額	孫本校: 从が一字多い(孫、王) 卹志:A:卷 02.葉 37 左.行 09.項 2: 从(正)、衍从(孫) 葉德輝はこう記すが、孫本の状況は周祖謨が記すように「从从」である。 卹志:U:卷 02.葉 41 左.行 06.項 2
111	v06a.106.119	梲	祖悶	徂門	徂門	なし	孫	孫本校: 悶(孫、廣韻)、門(王)
112	v06a.107.104	秘	丘	兵	兵	なし	孫	孫本校: 丘(孫)、兵(王) 詁林:葉 26 右.行 06.項 1: 兵(正)、丘(孫) 詁林はこの差異を祕(卷 01 上葉 02 行 03)に見えるとするが、そこは孫本でも兵と刻されている。この差を指す見出し字を書き損じたと思われる。
113	v06a.108.102	樛	遵	連	遵	なし	王	倉田: 遵(内藤)、連(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
114	v06a.108.105	粒	折	抑	折	なし	王	倉田: 折(内藤)、抑(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
115	v06a.108.115	斐	敷	府	敷	なし	王	孫本校: 敷(孫、毛)、府(王、廣韻) 丕(v01a.101.110)では孫本が敷、額本が敷であったが、ここでは両本とも敷。
116	v06a.108.120	棟	棟	桼	桼	なし	王	孫本校: 棟(孫)、桼(王) 倉田: 棟(内藤)、桼(岩崎) 海源閣本は内藤本・孫本・額本に符合。
117	v06b.102.114	𨔵	輒	輒	輒	周明	孫	雙鑑楼: 輒(王)、輒(雙、孫)
118	v06b.103.103	𨔵				蔡邕 なし	王	雙鑑楼: 𨔵の縦画が上につきでる(王)、つきでない(雙、孫)
119	v06b.103.118	圓	沈	汧	汧	蔡邕 なし	孫	孫本校: 沈(孫)、汧(王、毛) 詁林:葉 26 右.行 11.項 2 刊誤: 汧作沈
120	v06b.103.120	困	南	去	南	蔡邕 なし	王	孫本校: 南(孫、額)、去(王、毛) 詁林:葉 26 右.行 06.項 2
121	v06b.104.102	因	植	種	種	陳浩 なし	孫	孫本校: 植(孫)、種(王)
122	v06b.104.114	賀	以	从	以	陳浩 なし	王	雙鑑楼: 从(王)、以(雙、孫)
123	v06b.104.117	賸	𠂔月𠂔	朕	𠂔月𠂔	陳浩 なし	王	雙鑑楼: 朕(王)、𠂔月𠂔(雙、孫)
124	v06b.104.120	羸	羸	羸	羸	陳浩 なし	王	雙鑑楼: 羸(王)、羸(雙、孫)
125	v06b.105.107	貶	斂	斂	斂	陳恭 茅	孫	孫本校: 斂(孫)、斂(王)
126	v06b.107.103	鄭	𠂔莫水		慕	陳新	額	孫本校: 𠂔莫水(孫)、墓(王)、暮(唐韻)、慕(廣韻) 周祖謨はこのように記すが、四部叢刊および續古逸叢書では墓ではなく𠂔莫水に見える。
127	v06b.107.113	邠	縣邑	縣邑	縣从邑	陳新	額	孫本校: 縣邑(誤)、縣从邑(正)

128	v06b.107.116	鄧				陳新	額	孫本校: 偏の上部が𠂔か𠂔かの違い。
129	v06b.108.103	鄒	鄉	郡	鄉	なし	王	孫本校: 鄉(孫)、郡(王) 雙鑑楼: 郡(王)、鄉(雙鑑楼、孫)
130	v06b.108.117	鄒	成	戎	戎	なし	孫	孫本校: 成(孫)、戎(王、毛) 雙鑑楼: 戎(王)、房(雙、孫)
131	v07a.102.101	旱	吁		吁	姚	孫	孫本校: 吁(孫)、吁(額) 周祖謨は額本について記すことから、王本は孫本に同じと判断したと思われる。しかし四部叢刊・續古逸叢書ではハネが確認できない。ここではハネなし(額本に同じ)と解釈する。 朱竹残本: かすれのためどちらか判別不能。
132	v07a.103.115	旛	幅	旛	幅	徐 なし	王	孫本校: 幅(孫)、旛(王)、幡(韻會) 朱竹残本: 王本と符合。
133	v07a.106.101	鞮	千	于	于	なし	孫	孫本校: 千(孫)、于(王、毛) 朱竹残本: かすれているが王本に近い。
134	v07a.107.112	種	種	種	種	孫日新 なし	額	孫本校:種(誤)、種(正)
135	v07a.107.115	穢	(脱落)	己	己	孫日新 なし	孫	孫本校: 既聲己利切(王)、既聲利切(孫) 詁林:葉 26 右.行 07.項 1
136	v07a.108.101	穢	百	百	古	なし	額	孫本校: 百(孫)、古(額) 周祖謨は王本について記さないが、額本について記すことから、王本は孫本と同じと判断したと思われる。四部叢刊・續古逸叢書は百。 朱竹残本: 王本・孫本と符合。
137	v07a.108.101	秣	季	季	年	なし	全異	孫本校: 季(孫)、季(王) 朱竹残本: かすれのためどちらか判別不能。
138	v07a.108.106	秣	二	一	一	なし	孫	孫本校: 二(孫)、一(王) 詁林:葉 25 左.行 07.項 3 郎志:D:卷 02.葉 39 左.行 08.項 1 郎志:U:卷 02.葉 41 左.行 08.項 2 朱竹残本: 「一」
139	v07a.108.107	秣	續	續	讀	なし	額	孫本校: 續(誤)、讀(王) 朱竹残本: にじみのためどちらか判別不能。
140	v07a.108.107	秣	日	日	切	なし	額	孫本校: 日(誤)、切(正) 朱竹残本: 王本と符合。
141	v07a.108.113	秣	于	干	干	なし	孫	孫本校: 干(孫)、干(王) 朱竹残本: 「十」 詁林:葉 25 左.行 08.項 1
142	v07a.108.114	稍	稍	稍	冒	なし	額	孫本校: 稍(誤)、冒(正)
143	v07a.108.115	榜	戾	庚	庚	なし	孫	孫本校: 戾(孫)、庚(王) 朱竹残本: かすれのためどちらか判別不能。
144	v07a.109.106	秣	擊	狄	擊	なし	王	孫本校: 擊(孫)、狄(王) 朱竹残本: かすれのためどちらか判別不能。
145	v07a.109.111	黏		黏	黏	なし	全同	詁林:葉 25 左.行 08.項 2: 黏、黏也(孫)、黏、黏也(正) 丁福保はこう記すが、孫本でも黏に見える。
146	v07a.109.119	梁	梁	梁	梁	なし	孫	孫本校:梁(正)、梁(誤) 朱竹残本: 梁と思われる。 詁林:葉 25 右.行 04.項 2 郎志:D:卷 02.葉 39 左.行 08.項 2 郎志:Y:卷 02.葉 44 右.行 11.項 1: 「梁誤梁」
147	v07b.103.106	夔				弓 なし	全異	孫本校: 夔(孫)、夔(王) 朱竹残本: 冠が左右に切れており、額本に近い。
148	v07b.103.109	夔	人	人	久	弓 なし	額	孫本校: 人(誤)、久(正) 郎志:A:卷 02.葉 37 左.行 11.項 2
149	v07b.103.110	窳				弓 なし	額	孫本校: 「窳、或从穴。窳、當作窳。」 周祖謨は或体の字注が「从穴」である一方、注記一文字目の楷書体が窳でなく窳(穴であるべきところが𠂔)になっていると指摘する。王本・孫本は注記一文字目を穴に作っており問題はない。額本は小篆が竹冠を欠く一方、注記一文字目を窳でなく窳につくる。誤植の可能性はあり、周祖謨の指摘の本来の意図は不明だが、資料の上では額本だけ明らかに異なるので、これをとった。

150v07b.103.111	宄	洧	鮪	洧	弓 /なし	王	孫本校: 洧(孫、毛)、鮪(王) 朱竹残本: にじみのため判断が難しいが、サンズイではない。 卹志:U:卷 02.葉 41 左.行 09.項 2
151v07b.104.111	竄	墜	墜	匿	周 /周 =	額	刊誤: 匿作墜
152v07b.107.117	冢	冢	冢	冢	沈茂	孫	詁林:葉 25 左.行 09.項 1: 冢(孫)、冢(正)
153v07b.108.107	羸				胡勝	孫	卹志:D:卷 02.葉 39 左.行 09.項 1: 冊であるべきところが冊になっている。 卹志:U:卷 02.葉 41 左.行 09.項 1
154v07b.109.110	席	黼黻		黼黻	何 /なし	王	孫本校: 黼黻(孫)、黼黻(王、繫傳) 周祖謨は王本を黼黻と記すが、四部叢刊・續古逸叢書では黼黻のようにも見える。結論には影響しない。
155v07b.109.112	幃	大	太	太	何 /なし	孫	孫本校: 大(孫)、太(王)
156v08a.101.111	佼	功	巧	巧	なし	孫	孫本校: 功(孫)、巧(王) 詁林:葉 26 右.行 07.項 2
157v08a.103.115	覩	聞	聞	聞	呉徳 /なし	孫	孫本校: 聞(孫)、聞(王、毛、額)
158v08a.103.116	覩	姝	妹	妹	呉徳 /なし	孫	孫本校: 姝(孫)、妹(王)
159v08a.103.116	優	聲日	聲日	聲日	呉徳 /なし	孫	孫本校: 聲日(孫)、聲日(王) 詁林:葉 26 右.行 04.項 1
160v08a.104.105	俚	什	仆	仆	孫春 /なし	孫	孫本校: 什(孫)、仆(王、毛、繫傳) 刊誤: 仆作什
161v08a.104.108	佻	士	士	士	孫春 /なし	額	孫本校: 士(誤)、士(額)
162v08a.104.112	佚	忽	忽	忽	孫春 /なし	孫	孫本校: 忽(孫)、忽(王) 卹志:D:卷 02.葉 39 左.行 09.項 2 卹志:U:卷 02.葉 41 左.行 11.項 1
163v08a.104.114	御	虚	虐	虐	孫春 /なし	孫	孫本校: 虚(孫)、虐(王、毛) 詁林:葉 26 右.行 07.項 3 刊誤: 虐作虚
164v08a.104.117	傷	少	少	式	孫春 /なし	額	孫本校: 少(孫)、式(額)
165v08a.104.118	侷	備	備	備	孫春 /なし	王	孫本校: 備(孫)、備(王、毛)
166v08a.105.104	僇	憎	憎	憎	曹徳新 /なし	孫	孫本校: 憎(孫)、憎(王、毛) 卹志:D:卷 02.葉 39 左.行 10.項 1 卹志:U:卷 02.葉 41 左.行 11.項 2
167v08a.105.108	僇	市	市	市	曹徳新 /なし	額	卹志:V:卷 02.葉 43 右.行 06.項 1: 市(丁)
168v08a.105.117	眞	上	上	上	曹徳新 /なし	全異	孫本校: 上(孫)、上(王) 詁林:葉 25 左.行 09.項 2
169v08a.105.117	𠂔	矢	矢	𠂔	曹徳新 /なし	額	卹志:A:卷 02.葉 38 右.行 01.項 1: 𠂔(正)、矢(孫) 卹志:卷 02.葉 44.行 01.項 1: 矢為𠂔之誤
170v08a.106.101	歧	歧	歧	歧	呂 /呂 =	孫	孫本校: 歧(孫)、歧(王) 詁林: 葉 25 右.行 05.項 1
171v08a.108.107	𠂔	表	表	表	徐泳 /不鮮明	額	孫本校: 表(誤)、表(正)
172v08a.109.101	𠂔	虹	虹	江	沈 /なし	額	卹志:A:卷 02.葉 38 右.行 02.項 1: 江(正)、虹(孫) 卹志:U:卷 02.葉 42 右.行 01.項 1

173	v08a.109.107	卒	者衣爲	者衣爲	者爲	沈 なし	額	孫本校: 衣(誤)、芟(正)
174	v08a.109.107	雜	會	合	合	沈 なし	孫	刊誤: 合作會
175	v08a.109.111	楊	袒	袒	但	沈 なし	額	郵志:V:卷 02.葉 43 右.行 07.項 1: 袒(孫、王)、但(丁)
176	v08a.110.109	考	逮	遠	逮	阮千 なし	王	孫本校: 逮(孫)、遠(王) 説文訂: 逮宋本葉本作遠、譌字也。又一宋本不誤。 宋本 2 種で違いがあることを述べる。王本が「遠」 になっているので、周氏宋本は「逮」ということにな るであろう。 郵志:B:卷 02.葉 38 左.行 11.項 1
177	v08a.110.117	髡	士	士	士	阮千 なし	額	孫本校: 士(誤)、士(正)
178	v08a.111.104	屈	由	由	由	錢宗 /平山	孫	孫本校: 由(誤)、由(正) 詁林:葉 25 左.行 10.項 1
179	v08a.111.111	屢	丘	丘	丘	錢宗 /平山	額	孫本校: 丘(誤)、立(正) 詁林:葉 26 右.行 11.項 3
180	v08b.101.101	(著者名)	氏	慎	氏	余忠 なし	王	孫本校: 氏(孫)、慎(王)
181	v08b.101.118	俞	𠄎	𠄎	𠄎	余忠 なし	王	孫本校: 𠄎(孫)、𠄎(王)
182	v08b.104.118	譌	譌	譌	歌	なし	額	孫本校: 譌(誤)、歌(正)
183	v08b.104.119	歎	𠄎口𠄎	叶	叶	なし	孫	孫本校: 𠄎口𠄎(誤)、吐(正) 郵志:A:卷 02.葉 38 右.行 03.項 2 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 02.項 2 刊誤: 吐作𠄎口𠄎
184	v09a.102.111	頤	𠄎口𠄎	困	困	顧永 なし	全異	孫本校: 𠄎口𠄎(孫)、困(王、毛) 刊誤: 困聲作困聲
185	v09a.104.115	髻	結	髻	髻	刘昭 なし	孫	孫本校: 結(孫)、髻(王) 郵志:C:卷 02.葉 39 右.行 10.項 1
186	v09a.104.117	髻	鬢	髻	髻	刘昭 なし	全異	孫本校: 鬢(孫)、髻(毛、小徐) 周祖謨はとくに記さないが四部叢刊・續古逸叢書で 確認すると王本は「髻」。ここでは全て異なるとし た。
187	v09a.105.118	卷	𠄎	𠄎	𠄎	徐經 /補写	王	孫本校: 𠄎(孫)、𠄎(王)
188	v09a.105.119	𠄎	主	士	士	徐經 /補写	孫	詁林:葉 26 右.行 12.項 1: 主(孫)、士(正)
189	v09a.106.112	𠄎	偏	徧	徧	陳彬 なし	王	孫本校: 徧(孫)、徧(王) 詁林:葉 25 左.行 10.項 2
190	v09a.107.107	魅	友	𠄎	𠄎	陳晃 なし	孫	孫本校: 「从鬼友聲。友當作友、王本不誤。」 周祖謨はこのように記すが、四部叢刊本では友にも 見える。ここでは周祖謨に従う。 詁林:葉 25 右.行 05.項 2
191	v09a.107.109	魅	𠄎	女	女	陳晃 なし	孫	孫本校: 𠄎(孫)、女(王) 詁林:葉 25 右.行 05.項 3
192	v09a.107.116	篡	官	宦	宦	陳晃 なし	孫	孫本校: 官(孫)、宦(王、毛) 詁林:葉 26 右.行 12.項 2
193	v09a.107.116	𠄎	多	多	𠄎	陳晃 なし	額	孫本校: 多(誤)、𠄎(正)
194	v09b.101.112	𠄎	弓	兮	兮	范文 なし	孫	孫本校: 弓(孫)、兮(王) 詁林:葉 25 右.行 06.項 1
195	v09b.102.107	崑	暉	渾	渾	金嵩 なし	孫	刊誤: 渾作暉
196	v09b.102.111	崖	戸	𠄎	𠄎	金嵩 なし	孫	孫本校: 戸(孫)、𠄎(王) 詁林:葉 25 右.行 06.項 2
197	v09b.103.101	庾	槽	漕	漕	沈珍 なし	孫	孫本校: 槽(孫)、漕(王) 説文訂: 宋本葉本作漕。 説文訂が周氏宋本について記すと読めるか不明。

198	v09b.104.102	𠂔	泰	泰	秦	方中 なし	額	刊誤: 秦作泰
199	v09b.104.110	卅	卅	卅	卅	方中 なし	孫	孫本校: 卅(孫)、卅(王)
200	v09b.104.114	𠂔	陵	𠂔	𠂔	方中 なし	孫	孫本校: 陵(孫)、𠂔(王、毛) 詁林:葉 25 左.行 11.項 1 郵志:D:卷 02.葉 39 左.行 10.項 2 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 04.項 1
201	v09b.104.115	𠂔	若	若	苦	方中 なし	額	孫本校: 若(誤)、苦(正) 刊誤: 苦作若
202	v09b.104.116	𠂔	若	若	苦	方中 なし	額	孫本校: 若(誤)、苦(正)
203	v09b.104.117	𠂔	鉅	鉅	鉅	方中 なし	孫	孫本校: 鉅(孫)、鉅(王) 詁林:葉 26 右.行 12.項 3 刊誤: 鉅作鉅
204	v09b.104.118	𠂔		𠂔	𠂔	方中 なし	孫	孫本校: 𠂔(孫)、𠂔(王) 周祖謨は孫本を𠂔とするが、𠂔にも見える。結論には影響しない。 説文訂: 𠂔石也。宋本葉本作𠂔、誤字也。周氏宋本不誤。王本だけが誤っている状況を指摘しており、周氏宋本と孫本は符合する。 郵志:卷 02.葉 39 右.行 1.項 1
205	v09b.104.119	𠂔	𠂔		虞	方中 なし	孫	孫本校: 𠂔(孫)、虞(王) 周祖謨は虞とするが虞のようにも見える。ここでは孫本との大きな字形差に注目し、周に従う。 郵志:B:卷 02.葉 39 右.行 02.項 1 郵志:D:卷 02.葉 39 左.行 10.項 3 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 04.項 2 刊誤: 虞作𠂔
206	v09b.104.120	𠂔	巖	山巖	山巖	方中 なし	孫	孫本校: 巖(孫)、山巖(王) 詁林:葉 26 右.行 04.項 3
207	v09b.105.104	𠂔				范堅	全異	孫本校: 𠂔(孫)、𠂔(王)。𠂔馬彡(孫)、廉(額)。 周祖謨はこのように記すが、額本も廉ではなく𠂔馬彡につくる。但し2つの反切を並べる部分が、孫本・王本は「〇〇切又××切」と並べるのに対し、額本は「〇〇××二切」とする。
208	v09b.105.105	𠂔	來	來	求	范堅	額	孫本校: 來(孫、王)、求(額)
209	v09b.106.106	𠂔	反	反	及	王桂 /不鮮明	額	郵志:A:卷 02.葉 38 右.行 05.項 2: 及(正)、反(孫) 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 05.項 1
210	v09b.107.109	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	范堅	孫	孫本校: 𠂔(誤)、𠂔(正) 周祖謨は各本の状況について記さないが、孫本の状況は誤字とされる𠂔である。續古逸叢書・四部叢刊本で見る王本は正しいとされる𠂔。 郵志:D:卷 02.葉 39 左.行 11.項 1 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 05.項 2
211	v10a.102.109	𠂔	樂	渠	渠	丁松年 /不鮮明	孫	孫本校: 樂(誤)、渠(正) 詁林:葉 26 左.行 01.項 1
212	v10a.102.111	馮	𠂔	𠂔	𠂔	丁松年 /不鮮明	孫	孫本校: 𠂔(孫)、𠂔(王)
213	v10a.102.118	𠂔	鞫		鞫	曹鼎 なし	孫	孫本校: 鞫(誤)、鞫(正) 周祖謨は王本の状況について記さない。四部叢刊、續古逸叢書とも判読困難だが、汲古閣本(四次様本および通行本)が「鞫」、説文訂もこの箇所コメントしないので周は鞫と扱ったと解釈する。
214	v10a.103.120	𠂔	牝	牡	牡	曹鼎 なし	孫	孫本校: 牝(孫)、牡(王)
215	v10a.105.111	𠂔	驚	駕	駕	文	孫	郵志:B:卷 02.葉 39 右.行 03.項 1: 駕(誤)、驚(孫)
216	v10a.105.111	狀	盈	芻	鈕	文	全異	孫本校: 盈(孫)、芻(王)
217	v10a.105.112	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	文	孫	孫本校: 𠂔(孫)、𠂔(王)

218	v10a.105.113	狎	甲	時	時	文	孫	孫本校: 胡(孫)、時(王)
219	v10a.106.105	獲	候	猴	猴	徐泳	孫	孫本校: 候(孫)、猴(王) 詁林:葉 25 右.行 07.項 1 郵志:D:卷 02.葉 40 右.行 01.項 1 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 06.項 1
220	v10a.106.107	穀	候	猴	猴	徐泳	孫	孫本校: 候(孫)、猴(王) 詁林:葉 25 右.行 07.項 2
221	v10a.106.109	狐	大	犬	犬	徐泳	孫	孫本校: 大(孫)、犬(王) 郵志:B:卷 02.葉 39 右.行 04.項 1
222	v10a.106.109	獮	茲	茲	茲	徐泳	額	孫本校: 弦(正)、茲(誤)
223	v10a.106.118	𪚗	𪚗	𪚗	𪚗	徐泳	孫	郵志:A:卷 02.葉 38 左.行 05.項 1: 𪚗(誤)、𪚗(孫)
224	v10a.108.103	𪚗・𪚗	于	干	干	文	孫	孫本校: 于(孫)、干(王) 詁林:葉 25 左.行 11.項 2
225	v10a.108.106	𪚗	迴	迴	迴	文	全同	孫本校: 迴(誤)、迴(正)
226	v10a.108.109	𪚗	敖	敖	熬	文	額	孫本校: 敖(誤)、熬(正)
227	v10a.109.108	威	似	似	𪚗	重刊費	額	孫本校: 似(誤)、𪚗(正) 周祖謨はどの小篆の注記かを書き漏らしているが、 文脈から判断するとこの項である。
228	v10a.110.105	𪚗	登		登	因	王	説文訂: 周氏宋本及宋刊五音韻譜作登、宋本葉本作登、 誤也。 孫本は周氏宋本に符合する。四部叢刊本でも續古逸 叢書でも「登」かは判断が難しいが、段玉裁に従う。 郵志:E:卷 02.葉 40 右.行 11.項 2
229	v10a.110.109	𪚗	晒	晒	色	因	額	孫本校: 晒(誤)、色(正) 郵志:A:卷 02.葉 38 右.行 06.項 3 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 07.項 2
230	v10a.110.110	儻	式	者	者	因	孫	孫本校: 式(孫)、者(王)
231	v10b.101.107	桑	役	役	役	曹榮 /補写	王	郵志:Y:卷 02.葉 44 左.行 02.項 1: 「役誤役」
232	v10b.101.120	𪚗	𪚗		𪚗	礼明 /(補写・誤刻)	王	孫本校: 𪚗(孫)、𪚗(王) 説文訂: 周氏宋本葉本及宋刊五音韻譜皆作𪚗𪚗…王氏 宋本作𪚗𪚗、趙本五音韻譜及毛本作𪚗𪚗、則又兩本互異。 王本の状況について周祖謨と段玉裁で記述が異なる。 四部叢刊本も續古逸叢書も周の記述に近いが、3 本の中で王本だけが異なる結論には影響しない。 郵志:E:卷 02.葉 40 左.行 01.項 1
233	v10b.102.118	𪚗	良	𪚗	良	礼明 /(補写・誤刻)	王	孫本校: 良(誤)、𪚗(正)
234	v10b.102.120	𪚗	𪚗		𪚗	礼明 /(補写・誤刻)	孫	孫本校: 𪚗(誤)、𪚗(正) 周祖謨はこのように記すが、孫本を即と見て良いか は難しい。もし区別するならば𪚗は無視すること になるので、額本を王本と同じとした。
235	v10b.103.109	𪚗	目	司	目	信 /なし	王	孫本校: 目(孫)、司(王) 詁林:葉 25 左.行 12.項 1 郵志:D:卷 02.葉 40 右.行 01.項 3 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 08.項 1 刊誤: 司作目
236	v10b.103.110	𪚗	日	𪚗	𪚗	信 /なし	孫	孫本校: 日(孫)、𪚗(王) 詁林:葉 25 右.行 08.項 1 郵志:D:卷 02.葉 40 右.行 01.項 2 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 07.項 3
237	v10b.103.110	報	号	耗	号	信 /なし	王	孫本校: 博(孫)、耗(王、唐韻)
238	v10b.104.106	大	達		達	信 /なし	王	孫本校: 達(孫)、蓋(王)、蓋(唐韻) 周祖謨は王本を蓋とよむが、四部叢刊も續古逸叢書 も蓋にみえる。孫本・額本との違いより大きいこと には変わりがない。孫本は「達」の横画が一画足り ないが、ここでは王本との違いにのみ注目した。
239	v10b.105.105	(部首末)	文二	文三	文三	董	孫	孫本校: 文二(孫)、文三(王) 刊誤: 三作二
240	v10b.105.110	息	下	亦	亦	董	孫	孫本校: 下(孫)、亦(王) 詁林:葉 25 右.行 08.項 2

241	v10b.106.102	𠂔	文	支	支	董	孫	孫本校: 文(孫)、支(王、毛) 詁林:葉 26 右.行 08.項 1
242	v10b.106.105	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	董	額	孫本校: 𠂔(誤)、𠂔(正)
243	v10b.106.120	𠂔	𠂔		𠂔	董	全同	孫本校: 𠂔(孫)、虞(王) 周祖謨は王本が虞と記すが、四部叢刊でも續古逸叢書でも𠂔に見える。ここでは𠂔とする。
244	v10b.107.101	𠂔	从	以	从	曹鼎 なし	王	郵志:A:卷 02.葉 38 右.行 07.項 2: 从(正)、以(孫)
245	v10b.107.106	𠂔	驕	矯	矯	曹鼎 なし	孫	孫本校: 驕(孫)、矯(王) 説文訂: 按宋本葉本如此。…周氏宋本作驕。 孫本と周氏宋本が符合する。 郵志:A:卷 02.葉 38 左.行 06.項 1: 矯(誤)、驕(孫) 郵志:E:卷 02.葉 40 左.行 02.項 1: 矯作橋 ここでは孫本は「橋」につくるとしており、前項と整合しない。
246	v10b.108.115	𠂔	从	从	久	曹鼎 なし	額	孫本校: 从(誤)、久(正)
247	v10b.109.107	𠂔	葡	葡	葡	金嵩 補写	額	孫本校: 葡(誤)、葡(正)
248	v10b.109.114	𠂔・𠂔	恨	很	很	金嵩 補写	孫	孫本校: 恨(孫)、很(王、毛)
249	v10b.109.119	𠂔	系	系	糸	金嵩 補写	額	孫本校: 系(誤)、糸(正)
250	v11a.102.103	涪	海		海	良富	全同	孫本校: 海(孫)、沔(王) 説文訂: 「…東南入沔」沔、宋本葉本作海誤、趙本五音韻譜集韻類篇作沔不誤。 周祖謨は段氏説をひき王本が沔とする(段注本ではこの条の誤字に関する言及はなく、おそらく説文訂を指す)。四部叢刊でも續古逸叢書でも「東南入海」であり、説文訂でも少なくとも王本は海のように読める。ここでは海とする。 郵志:A:卷 02.葉 38 右.行 08.項 1 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 09.項 1
251	v11a.102.106	潞	潞	路	潞	良富	王	郵志:B:卷 02.葉 39 右.行 07.項 1: 路(誤)、潞(孫) 郵志:Z:卷 02.葉 44 左.行 09: 潞(丁)
252	v11a.102.117	淮				良富	孫	孫本校: 乎(誤)、平(正) 周祖謨は各本の状況について記さず、孫本を乎としてよいかも判断が難しいが、縦画のハネで判断したと解釈し、孫本のみ異なるとした。
253	v11a.102.120	澗	澗	間	澗	良富	王	郵志:B:卷 02.葉 39 右.行 08.項 1: 間(誤)、澗(孫) 郵志:Z:卷 02.葉 44 左.行 11.項 1: 澗(丁)
254	v11a.103.120	𠂔	奴	乃	乃	葉邦 なし	孫	孫本校: 奴(孫)、乃(王)
255	v11a.104.101	垂	圭	垂	垂	葉邦 なし	全異	孫本校: 圭(孫)、垂(王) 詁林:葉 25 右.行 09.項 1
256	v11a.104.104	沈	光	光	尤	葉邦 なし	額	孫本校: 光(誤)、尤(正) 郵志:A:卷 02.葉 38 右.行 08.項 2 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 09.項 2
257	v11a.104.109	濱	濱	湧	濱	葉邦 なし	王	説文訂: 湧(王本、葉本)、濱(周氏宋本)。 周氏宋本と孫本は符合する。 郵志:E:卷 02.葉 40 左.行 03.項 1
258	v11a.104.112	泌	俠	俠	俠	葉邦 なし	王	刊誤: 陝作俠
259	v11a.104.113	潜	潜	水	潜	葉邦 なし	王	孫本校: 潜(孫)、水(王)
260	v11a.104.114	減				葉邦 なし	王	孫本校: 子(孫)、于(王) 周祖謨は王本を于とするが、四部叢刊でも續古逸叢書でも不鮮明で子にも見える。ここでは周に従う。 詁林:葉 26 左.行 01.項 2
261	v11a.104.118	𠂔	王	于	王	葉邦 なし	王	孫本校: 王(孫、毛)、于(王)、羽(小徐本)
262	v11a.106.106	沸	澤	畢	畢	王進 なし	孫	孫本校: 澤(孫、繫傳)、畢(王、毛) 説文訂: 澤(周氏宋本)、畢(王本)。 周氏宋本と孫本は符合する。
263	v11a.106.118	𠂔	成	成	皮	王進 なし	額	孫本校: 成(孫)、皮(額)

264	v11a.106.118	潢	小	水	水	王進 なし	孫	孫本校: 小(孫)、水(王) 郵志:B:卷 02.葉 39 右.行 08.項 2
265	v11a.106.119	洊	水	水	木	王進 なし	額	孫本校: 水(誤)、木(正) 郵志:A:卷 02.葉 38 右.行 08.項 3 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 09.項 3
266	v11a.106.120	沿	王	主	王	王進 なし	王	説文訂: 主(王氏宋本)、王(周氏宋本)。 周氏宋本と孫本が符合する。
267	v11a.107.104	沒	黄	黄	莫	王蒸 なし	額	孫本校: 黄(誤)、莫(額)
268	v11a.107.107	涓	資	資	賈	王蒸 なし	額	孫本校: 資(誤)、賈(正) 周祖謨はどの小篆の注記かを書き漏らしているが、 文脈から判断するとこの項である。 郵志:A:卷 02.葉 38 右.行 09.項 1 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 10.項 1
269	v11a.107.108	濱	水	水	才	王蒸 なし	額	孫本校: 水(誤)、才(正)
270	v11a.108.108	涓	丸	玩	丸	陳浩 なし	王	孫本校: 丸(孫)、玩(王) 刊誤: 玩作丸
271	v11a.108.110	浚	杼	杼	杼	陳浩 なし	王	孫本校: 杼(孫)、杼(王) 詁林:葉 25 左.行 12.項 2
272	v11a.108.119	滌	徒	徒	徒	陳浩 なし	孫	孫本校: 徒(孫)、徒(王、毛)
273	v11a.109.107	染	枕	梔	梔	李中 なし	孫	孫本校: 枕(孫)、梔(王)、梔(正) 詁林:葉 25 右.行 09.項 2
274	v11a.109.108	泰	汰	汰	汰	李中 なし	孫	孫本校: 汰(孫)、汰(王)
275	v11a.109.114	萍	草	草	萃	李中 なし	額	郵志:A:卷 02.葉 38 右.行 10.項 1: 萃(正)、草(孫) 郵志:W:卷 02.葉 44 右.行 04.項 1:
276	v11a.109.116	(重文数)	二	三	三	李中 なし	孫	孫本校: 二(孫)、三(王)、四(正)
277	v11a.109.118	濯	𠄎	𠄎	𠄎	李中 なし	額	孫本校: 𠄎(誤)、𠄎(正) 正しくは𠄎と思われるが、周祖謨は貝でなく目で示し、 額本は貝でなく𠄎で示している。結論は同じ。
278	v11b.101.108	頻・類	瀆	賓	賓	なし	孫	孫本校: 瀆(孫)、賓(王) 周祖謨は王本を賓とするが四部叢刊本でも續古逸叢書でも 賓(賓と同義)である。ここでは周に従う。 詁林:葉 25 左.行 12.項 3
279	v11b.101.113	く	泫	玄	玄	なし	王	孫本校: 泫(孫)、玄(王) 周祖謨は王本が玄とするが、四部叢刊本では玄にも見える(續古逸叢書は玄)。 孫本・額本とは異なるので、結論には影響しない。
280	v11b.103.103	凝	水	冰	冰	徐怡祖	孫	孫本校: 水(孫)、冰(王) 詁林:葉 25 右.行 10.項 1
281	v11b.103.113	霽	文	丈	丈	徐怡祖	孫	孫本校: 文(孫)、丈(王) 周祖謨は王本を丈とするが、四部叢刊本や續古逸叢書では文のようにも見える。 ここでは周に従う。 詁林:葉 26 右.行 08.項 2 刊誤: 丈作文
282	v11b.105.103	鯛	同	同	同	李祥	孫	孫本校: 同(孫)、同(王) 詁林:葉 26 右.行 01.項 1 郵志:D:卷 02.葉 40 右.行 03.項 1 郵志:U:卷 02.葉 42 右.行 10.項 2
283	v11b.105.113	鮫	尸	戸	戸	李祥	孫	孫本校: 尸(孫)、戸(王)
284	v12a.102.110	扇	聲	聲	省	なし	額	孫本校: 聲(誤)、省(正)
285	v12a.102.119	開	薄	薄	薄	なし	王	孫本校: 薄(孫)、薄(王)
286	v12a.103.106	闔	鑿	割	鑿	張昇 なし	王	孫本校: 鑿(孫)、割(王)
287	v12a.103.106	闔	響	嚮	響	張昇 なし	王	孫本校: 響(孫)、嚮(王)、郷(段注本)
288	v12a.103.107	閉	闔	閉	闔	張昇 なし	王	孫本校: 闔(孫)、閉(王) 詁林:葉 25 右.行 10.項 2
289	v12a.103.109	闔	奄	闔	奄	張昇 なし	王	孫本校: 奄(孫)、闔(王)

290	v12a.103.119	聃	兼	廉	兼	張昇 なし	王	孫本校: 兼(孫)、廉(王)
291	v12a.104.120	擽	趣	趨	趣	顧澄 なし	王	孫本校: 趣(孫)、趨(王)
292	v12a.105.108	拊	井	冎	冎	錢宗 なし	孫	孫本校: 井(誤)、冎(正) 詁林:葉 25 右.行 11.項 1 邨志:D:卷 02.葉 40 右.行 04.項 1 邨志:U:卷 02.葉 42 右.行 11.項 1
293	v12a.105.113	按	盱	盱	盱	錢宗 なし	孫	孫本校: 盱(孫)、盱(王) 詁林:葉 26 左.行 01.項 3
294	v12a.106.103	招	召止	召聲止	召聲止	周興 なし	孫	孫本校: 召止(孫)、召聲止(王) 詁林:葉 26 右.行 05.項 1
295	v12a.106.107	標	門	門	闢	周興 なし	額	孫本校: 門(誤)、闢(正) 邨志:A:卷 02.葉 38 右.行 11.項 1 邨志:U:卷 02.葉 42 左.行 01.項 1
296	v12a.106.107	標				周興 なし	全同	邨志:A:卷 02.葉 38 右.行 11.項 1: 牡(正)、壯(孫) 邨志:U:卷 02.葉 42 左.行 01.項 1 各本、旁が土か土かの判断が難しいが、邨志が注目する字形差は偏であるので字形差なしと扱う。
297	v12a.106.108	扶	夭	夊	夊	周興 なし	孫	孫本校: 夭(孫)、夊(王) 詁林:葉 26 右.行 01.項 2 邨志:U:卷 02.葉 42 右.行 11.項 2
298	v12a.106.109	摘	扌	歷	厄	周興 なし	全異	孫本校: 扌(孫)、歷(王)、厄(毛、廣韻)
299	v12a.106.114	揅	敷	扶	敷	周興 なし	王	孫本校: 敷(孫、毛)、扶(王、玉篇) 葉(v06a.108.115)と同様に、孫本・額本とも偏は専である。
300	v12a.107.103	玃	臻	巾	臻	張松 なし	王	孫本校: 臻(孫、廣韻)、巾(王)
301	v12a.107.106	抽	摺或	籀文	摺或	張松 なし	王	孫本校: 摺或从由(孫)、籀文从由(王)
302	v12a.107.109	揅	朮	木	木	張松 なし	孫	孫本校: 朮(孫)、木(王) 詁林:葉 25 右.行 11.項 2
303	v12a.107.113	扞	擣	擔	擣	張松 なし	王	孫本校: 擣(孫)、擔(王)
304	v12a.107.118	概	概	漑	概	張松 なし	王	孫本校: 概(孫)、漑(王)
305	v12a.108.107	枕	告	若	(脱落)	周成 なし	全異	邨志:C:卷 02.葉 39 右.行 11.項 1: 若(王)、告(孫)
306	v12a.108.108	扞		干	干	周成 なし	孫	孫本校: 干(孫)、干(王) 孫本の字形が干か干か、判断が難しい。ここでは周祖謨に従う。
307	v12a.108.110	挂	畫	宣	宣	周成 なし	孫	孫本校: 畫(孫)、宣(王)
308	v12a.108.119	掠	擿	擿	擿	周成 なし	王	孫本校: 擿(孫)、擿(王、毛)
309	v12b.101.108	嫫	説	曰	説	蔡都 なし	王	孫本校: 説(孫)、曰(王)
310	v12b.102.105	頽	蟬	蟬	蟬	陳彬 なし	孫	孫本校: 蟬(孫)、蟬(王) 詁林:葉 25 右.行 11.項 3
311	v12b.102.115	嬰			妃	陳彬 なし	額	孫本校: 𡚦女巳(孫、王)、𡚦(正) 周祖謨はこのように記すが、孫本も、四部叢刊・續古逸叢書で見える王本も妃である。
312	v12b.102.116	嬖	兂	兂	銳	陳彬 なし	額	邨志:V:卷 02.葉 43 左.行 04.項 1: 兂(宋)、銳(丁)
313	v12b.103.112	媛	引	於	於	方至 なし	孫	孫本校: 引(孫)、於(王) 邨志:C:卷 02.葉 39 左.行 01.項 1
314	v12b.103.116	佞	調	調	調	方至 なし	孫	孫本校: 調(孫)、調(王)
315	v12b.103.119	娟	他	他	也	方至 なし	額	邨志:A:卷 02.葉 38 右.行 11.項 2: 也(正)、他(孫) 邨志:Z:卷 02.葉 44 左.行 06.項 1: 他(宋、孫)、也(丁)

316v12b.104.109	嬾	臥	臥	卧	呂信 なし	額	孫本校: 臥(誤)、暨(正) 卹志:V:卷 02.葉 43 左.行 04.項 2: 暨(丁)
317v12b.104.115	婁	又		又	呂信 なし	王	孫本校: 又(孫)、不(王、毛) 四部叢刊でも續古逸叢書でも王本が不かどうか判断が難しい。ここでは周祖謨に従う。 詁林:葉 25 右.行 12.項 1 卹志:D:卷 02.葉 40 右.行 04.項 2 卹志:U:卷 02.葉 42 左.行 01.項 2
318v12b.106.105	夏	首	百	百	石昌 なし	孫	孫本校: 首(孫)、百(王) 詁林:葉 25 右.行 12.項 2 卹志:D:卷 02.葉 40 右.行 05.項 1 卹志:U:卷 02.葉 42 左.行 02.項 1
319v12b.106.106	或	以守	又从	又从	石昌 なし	孫	孫本校: 以守(孫)、又从(王) 説文訂: 宋本葉本如此(又从)、周氏宋本作…(以守)。 周氏宋本と孫本は符合する。 卹志:E:卷 02.葉 40 左.行 04.項 1
320v12b.106.107	或	投	殺	殺	石昌 なし	孫	孫本校: 投(孫)、殺(王) 詁林:葉 25 左.行 01.項 1 卹志:D:卷 02.葉 40 右.行 05.項 2 卹志:U:卷 02.葉 42 左.行 02.項 2 刊誤: 殺作投
321v12b.106.108	戕	槍	槍	槍	石昌 なし	孫	孫本校: 槍(孫)、槍(王) 詁林:葉 26 右.行 02.項 1
322v12b.106.108	戕	士	士	在	石昌 なし	額	孫本校: 士(誤)、在(正)
323v12b.106.109	戴	槍	槍	槍	石昌 なし	孫	孫本校: 槍(孫)、槍(王)
324v12b.107.113	望	望	望	望	陳才	額	孫本校: 望(誤)、望(正) 卹志:卷 02.葉 38 左.行 1.項 1
325v12b.108.103	匪		管	管	呉	孫	孫本校: 筐(孫)、篋(毛、廣韻) 周祖謨は孫本を筐とするが、はこがまえの底が欠けている。また特に記さないが王本は管に作る。
326v12b.108.112	𨔵	林从	旅从	林以	呉	全異	孫本校: 林从(誤)、林以(正) 周祖謨は特に記さないが、王本は「旅从」である。
327v12b.108.119	瓠				呉	孫	孫本校: 孟(孫)、孟(王) 各本の判断が難しいが、ここでは周祖謨に従う。額本は王本に同じとする。
328v13a.101.101	(著者名)	記	(脱落)	記	なし	王	孫本校: 「許慎記」の「記」が王本にはない。
329v13a.101.110	緒	日	口	口	なし	孫	孫本校: 日(孫)、口(王) 詁林:葉 26 右.行 08.項 3
330v13a.101.111	紙	氏	氏	氏	なし	額	孫本校: 氏(誤)、氏(正)
331v13a.101.111	紙		都	都	なし	孫	孫本校: 節(孫)、都(王、毛) 詁林:葉 26 右.行 09.項 1 刊誤: 都作節
332v13a.101.111	絀	口	日	日	なし	孫	孫本校: 口(孫)、日(王) 詁林:葉 25 左.行 01.項 2 卹志:C:卷 02.葉 39 左.行 02.項 1 卹志:V:卷 02.葉 43 左.行 05.項 2: 口(孫)、日(宋、丁)
333v13a.101.114	統	綜		綜	なし	王	孫本校: 綜(孫)、總(王) 周祖謨は王本を總とするが、四部叢刊や續古逸叢書では總・總にも見える。結論には影響なし。
334v13a.102.109	縹			捷	弓華	全同	孫本校: 捷(誤)、捷(正) 周祖謨は捷とするが、実際には一画足りない  である。ただし、ここでは額本と同じと扱う。 卹志:V:卷 02.葉 43 左.行 06.項 1: 捷(丁)
335v13a.102.114	縹	擻	緻	擻	弓華	王	孫本校: 擻(孫)、緻(王、玉篇、韻譜、韻會) 卹志:D:卷 02.葉 40 右.行 06.項 1 卹志:U:卷 02.葉 42 左.行 05.項 1
336v13a.102.114	縹	幟	幟	幟	葉	額	卹志:卷 02.葉 38 左.行 2.項 3: 幟(正)、幟(孫) 卹志:W:卷 02.葉 44 右.行 04.項 2: 「幟為幟之誤」
337v13a.103.104	纒	七	士	士	呉祐 なし	孫	孫本校: 七(孫)、士(王、毛) 刊誤: 士作七
338v13a.103.109	綬	植	殖	殖	呉祐 なし	孫	孫本校: 植(孫)、殖(王、毛)

339	v13a.105.102	緡	擊	繫	繫	方中 /方=	孫	孫本校: 擊(孫)、繫(王)
340	v13a.105.108	彝	米	朮	朮	方中 /方=	孫	周祖謨は彝の注記については「寶」しか記録せず、この箇所には言及なし。
341	v13a.105.108	彝	寶	寶	寶	方中 /方=	額	孫本校: 寶(誤)、實(正)
342	v13a.105.115	約	約	約	約	方中 /方=	孫	孫本校: 約(孫)、約(王、毛) 卹志:D:卷 02.葉 40 右.行 06.項 2 卹志:U:卷 02.葉 42 左.行 05.項 2
343	v13a.107.104	蝸	蝸	蝸	蝸	褚	額	詁林: 葉 25 左.行 02.項 1: 蝸(孫)、蝸(正)
344	v13a.107.105	蠕	即	即	郎	褚	額	孫本校: 即(孫)、郎(額)
345	v13a.108.109	蠃	首	首	直	顧澄 /なし	額	孫本校: 首(孫)、直(額)
346	v13b.102.118	隤	沒	沒	沒	葉	全同	孫本校: 沒(誤)、汝(正) 周祖謨はどの小篆の注記かを書き漏らしているが、文脈から判断するとこの項である。各本で字形は若干異なるが、同義のため同じとする。
347	v13b.105.106	鬲	鯀	鯀	鯀	金大明刊	孫	刊誤: 鯀作鯀
348	v13b.106.107	艱	良	良	良	なし	額	孫本校: 良(孫)、良(王) 周祖謨は王本が良とするが、四部叢刊本でも續古逸叢書でも良にみえる。ここでは良とする。
349	v13b.106.118	略	烏	烏	离	なし	額	孫本校: 烏(孫)、离(額)
350	v13b.106.120	暘	今	(脱落)	今	なし	王	孫本校: 「…暢。今俗別作…」(孫)、「…暢。俗別作…」(王) 周祖謨は見出し小篆を田田易のように示すが、暘の誤植と思われる。各本で字形は若干異なるが、同義のため同じとする。
351	v13b.107.119	勞	門	門	門	楊春	額	説文訂: (毛本では門がここにあることについて)初印本如此、趙本五音韻譜同葉本門作日、周氏宋本作門。 周氏宋本と孫本は符合するが、王本も門なので対比としては十分でない。
352	v14a.101.101	鎔	金	金	釜	曹徳新	額	孫本校: 金(孫)、余(正)、釜(額)
353	v14a.102.109	鏢	葉	葉	葉	詹徳潤	額	孫本校: 葉(誤)、葉(正)
354	v14a.103.102	鈞	鈞	鈞	鈞	なし	孫	孫本校: 鈞(孫)、鈞(王)
355	v14a.103.108	鍍	日列百鍍	日列百鍍	日列百鍍	なし	王	孫本校: 罰書日列百鍍(孫、王)、書日罰百鍍(正) 周祖謨は「王本同非也」とするが、四部叢刊本でも續古逸叢書でも「罰書日列百鍍」にみえる。ただし王本だけが異なることは変わらず、結論は同じ。
356	v14a.103.113	鎛	日	田	田	なし	孫	孫本校: 日(孫)、田(王) 詁林:葉 25 左.行 02.項 2
357	v14a.103.115	鏜	上	土	上	なし	王	孫本校: 上(孫)、土(王) 詁林:葉 26 左.行 02.項 1
358	v14a.104.101	鏃	鏃	鏃	鏃	林	孫	孫本校: 鏃(孫)、鏃(王) 卹志:D:卷 02.葉 40 右.行 06.項 3 卹志:U:卷 02.葉 42 左.行 07.項 2
359	v14a.104.102	鐃	(脱落)	(脱落)	金	林	額	孫本校: 从間聲(誤)、从金間聲(正)
360	v14a.104.106	鈇	鈇	鈇	鈇	林	額	孫本校: 旁が谷(孫)だが、忝にするのが正しい
361	v14a.104.118	鈇	季	季	季	林	孫	孫本校: 季(孫)、季(王) 王本が季か季か判断が難しいが、ここでは周祖謨に従う。 詁林:葉 26 右.行 09.項 2
362	v14a.105.120	罈	玉	玉	玉	詹徳潤	孫	孫本校:王(孫)、玉(王) 孫本が王か玉か判断が難しいが、ここでは周祖謨に従う。

363v14a.107.104		軈	軈	軈	軈	鄭春 なし	孫	孫本校: 軈(誤)、軈(正) 周祖謨は王本の状況を記さないが、四部叢刊本も續古逸叢書も軈である。 詁林:葉 25 左.行 03.項 1
364v14a.107.106		輶	端	崑	崑	鄭春 なし	孫	孫本校: 端(孫)、崑(王) 説文訂: 宋本葉本皆作崑。趙本作端。毛本從之非也。 説文訂は周氏宋本の状況を記さない。
365v14a.107.106		輶	滿	緩	滿	鄭春 なし	王	孫本校: 滿(孫)、緩(王) 説文訂は前項のように端・崑に関して言及するが、これに関しては言及なし。
366v14a.107.108		輶	候	侯	侯	鄭春 なし	全異	刊誤: 侯作候
367v14a.107.110		衝	(脱落)	一	一	鄭春 なし	孫	孫本校: …行、日衍省聲(孫)、…行、一日衍省聲(王) 詁林:葉 26 右.行 04.項 2 郎志:D:卷 02.葉 40 右.行 07.項 1 郎志:U:卷 02.葉 42 左.行 08.項 2 刊誤: 脱一字
368v14a.107.114		輶	郎擊	歷各	歷各	鄭春 なし	孫	孫本校: 郎擊(孫)、歷各(王、廣韻) 額本の「歷」に関しては筆写体とし今区別しない。
369v14b.101.117		阨	門	閫	閫	徐經 なし	孫	孫本校: 門(孫)、閫(王、毛) 郎志:V:卷 02.葉 43 左.行 08.項 1: 門(宋)、閫(丁)
370v14b.101.117		讀	讀若	讀若	讀若瀆	徐經 なし	額	孫本校: 讀若徒谷切(孫)、讀若瀆徒谷切(小徐) 周祖謨は他本の状況を記さないが、四部叢刊本も續古逸叢書も孫本に同じ。
371v14b.101.119		陴	泰	泰	秦	徐經 なし	額	孫本校: 泰(誤)、秦(正)
372v14b.105.111		庚				沈祥	王	刊誤: 小篆の形が違うとする。 王本は左右が連続しているが、孫本・額本は離してあることか。
373v14b.106.110		穀	穀	穀	穀	陳 なし	孫	孫本校: 穀(孫)、穀(王) 詁林:葉 25 左.行 03.項 2
374v14b.106.118		孱	七	士	士	陳 なし	孫	孫本校: 七(孫)、士(王)
375v14b.107.106		羞	流		旒	沈定 なし	孫	孫本校: 流(孫)、旒(王) 周祖謨は王本を旒とするが四部叢刊や續古逸叢書本では旒にみえる。ここでは偏のみ注目し、旒とする。
376v14b.108.107		申	臣	目	目	朱超 なし	孫	孫本校: 臣(誤)、目(正) 刊誤: 目作臣
377v14b.108.118		醜	厚	淳	厚	朱超 なし	王	孫本校: 厚(孫)、淳(王)
378v15a.101.112	許慎序	著	著	著	著	茅化	王	孫本校: 著(孫)、箸(王)
379v15a.103.116	許慎序	誼	誼	言官	言官	王	全異	孫本校: 誼(孫)、誼(王)
380v15a.105.117	後標目					なし /王=	額	孫本校: 百(誤)、百(正)
381v15b.105.117	俗書 譌謬	合	今	合	合	呉 なし	王	孫本校: 合(誤)、今(正)
382v15b.106.101	俗書 譌謬	口	臣	臣	臣	周成	孫	孫本校: 口(孫)、臣(王)
383v15b.106.107	篆文 筆迹	止	上	上	上	周成	孫	孫本校: 止(誤)、上(正)